

学 歌

「自然の秀麗 人の親和…」で始まる学歌は、大正11年9月、関西大学が大学令による大学に昇格した後に制定された。校歌はすでにあったが、時の総理事山岡順太郎が提唱する「学の実化」をうけて、新時代の学歌が待望されていた。本学教授服部嘉香が作詞し、服部の知人で作曲界の異才山田耕筰が作曲した。その後、山田耕筰は、歌唱上の制約から第3節の「自由の訓練 自治の發揮」を「自由の尊重 自治の訓練」と、また第2節の「学の実化」をじつげと歌うように指導した。それから今日に至るまで、その歌詞で歌い継がれている。

関西大学学歌は、理想に向かって歩む学生の意気を力強く歌い上げており、山田耕筰による二長調のメロディは、荘重にして高い格調で歌われるすばらしい学歌といえる。

この学歌の完成後、作曲した山田がわざわざ歌唱指導に来学した際に、マーチのごときテンポで、力強く、明瞭に、そして歯切れよく歌うように指導している。

關西大學學歌（原詞）

(一) 自然の秀麗 人の親和
たぐひなき 此の學園
我等立つ 人生の曙に
燦たる理想 仰ぎつゝ
學ぶは一途 純正の
若き心に 讚へなん
關西大學 長き歴史

(二) 眞理の討究 學の實化
たぐひなき 此の學園
我等有つ 潑瀾の精神に
榮ある文化 創るべく
勵むは一途 研鑽の
日々を樂しみ 忘れまじ
關西大學 重き使命

(三) 自由の尊重 自治の訓練
たぐひなき 此の學園
我等期す 人格の向上に
正義の奉仕 世に爲すと
希ふは一途 先進の
歩みさだかに 傳へばや
關西大學 高き權威

千里山學報第六号・大正一二年一月一日
同 第八号・大正一二年四月一日
同 第十五号・大正一三年一月一日
同 第二二号・大正一三年九月一日